

会 議 録

会議の名称	第6回 飯塚市文化施設活用検討委員会
開催日時	令和4年11月21日(月) 15:00~17:15
開催場所	イイヅカコミュニティセンター 2階 展示ホール
出席委員	竹川委員長、河副委員長、徳永委員、田中委員、長曾我部委員、 榎本委員、福丸委員、寺田委員、田上委員、眞鍋委員、奥田委員
欠席委員	瓜生委員、志村委員、大石委員、早川委員
事務局	<p>【教育部】</p> <p>山田教育部長</p> <p>【文化課】</p> <p>坂口課長、久原文化施設整備担当参与、吉田文化施設整備推進係長、西田</p> <p>【商工観光課】</p> <p>小川課長、柴田課長補佐、田中観光係長</p>
会議概要	<p>1 開会</p> <p>2 委員長あいさつ</p> <p>3 議題</p> <p>3-1 今後の飯塚市文化施設活用検討委員会の運営について</p> <p>3-2 嘉穂劇場が地域経済の活性化に寄与する方策等について</p> <p>3-3 劇場再開までに取り組むこと(ソフト事業を中心に)</p> <p>4 その他</p> <p>5 閉会</p>
会議資料	<p>資料1 今後の飯塚市文化施設活用検討委員会の運営について</p> <p>資料2 嘉穂劇場の周辺地域や施設との連携による活用方針について</p> <p>資料3 飯塚市中心商店街の現状について</p> <p>資料4 嘉穂劇場再開までに必要なこと(ソフト事業を中心に)</p>

会 議 録

<p>公開・非公開 の別</p>	<p>① 公開 2 一部公開 3 非公開</p> <p>(傍聴者 1 人)</p>
<p>その他（非公 開理由等）</p>	
<p>会議内容</p>	<p>1 開会</p> <p>2 委員長あいさつ</p> <p>3 議題</p> <p>3-1 今後の飯塚市文化施設活用検討委員会の運営について</p> <p>●事務局より資料1について説明</p> <p>中間答申をまとめていく過程の中で、文化施設や周辺の商業施設との連携による活用方針について検討が不足しているのではないかという意見があり、また、事務局としても最終答申に向けてさらなる検討や審議が必要な項目があるのではないかと考えている。委員会にはこれらの項目について確認していただきたい。</p> <p>【質問・意見等】</p> <p>① 劇場再開までに取り組むことについて</p> <p>委 員：再開までに時間がかかると思うので、嘉穂劇場を風化させない、忘れさせない、魅力をしっかり伝える活動がすごく大事だと思う。工事中であっても定期的に見学できるというようなこともやっていくべきで、また、演者への働きかけもしっかりやっていくべきだと思う。</p> <p>委 員：ファンクラブやオンラインでの取り組みも重要になってくるとか考えていて、データをアーカイブ化したり、SNSを活用したサービスがあった方が良くと思う。</p> <p>委 員：運営方法の中に市民との協働をきっちり入れ込んだ方が良く思っている。市民には応援側の参加ではなく、その主体として参加してもらえそうな運営の方法を検討したらどうか。</p>

会 議 録

3-2 嘉穂劇場が地域経済の活性化に寄与する方策等について

●事務局より資料2、3を説明

嘉穂劇場は昭和通り商店街、東町商店街とは目と鼻の先の位置関係にあり、劇場自体も市の所有となったことから、今まで以上に相互に連携しながら市の中心部を盛り上げていく必要性を感じている。中心市街地では西鉄バスターミナルの再開発やマンションを誘導するなどして、歩いて暮らせるエリアとしての魅力づくりも進めている。中心商店街を含む商業の課題は人口減少などいくつかあるが、タウンマネージャーを配置し、各種イベントを開催するなどして課題解決に取り組んでいるところである。今後は嘉穂劇場も含めて事業連携をやっていければと考えている。

【質問・意見等】

② 商店街の状況について

委員：中心商店街の歩行者数が低下しているが、特に嘉穂劇場と隣接している昭和通り商店街と東町商店街の通行量が少なく感じた。やはりこの通行量をどう上げていくかが課題ではないか。

事務局：嘉穂劇場への動線として、のぼり旗を立てるといった取り組みは行っていきたい。また、嘉穂劇場を含めて、商店街全体をどう盛り上げていけるのかについては商店街と連絡を取り合い、今後考えていければと思っている。

③ 中心商店街活性化ビジョンについて

委員：この活性化ビジョンを作成するにあたっては、商店街関係者以外では、外部の意見とかその他の関係者の話を聞いたりしてまとめられたものなのか。

事務局：ビジョン策定の経緯としては、商店街関係者と商工会議所が中心商店街活性化に関する勉強会を立ち上げ、その勉強会の中でこのビジョンを策定したものである。

委員：今後嘉穂劇場を活性化していくにあたり、商店街との関わりはすごく大事になってくるのではないかと。そのためには、いろいろな知見を持った人が関わり合いながら話をしていった方が全体とし

会 議 録

てまとまりのある形になるのではないかと思います。

④ 商店街及び周辺地域との関わりについて

副委員長：以前、商店街の活性化に関する事業に参加したときに、協力体制の面で難しい部分があったと感じた。現在では商店街同士、また、嘉穂劇場とも協力しあえるような体制になっているのか。

事務局：タウンマネージャーが各種イベントや販促会議なども積極的に関わっており、商店街同士の連携もスムーズになっている。今後は嘉穂劇場とも関係性を持って進めていかなければならないと考えている。

委員：周辺地域とのつながりという点においては、イベントを行うことは効果的だと思う。イベントにおいて演出家は非常に重要で、イベントのコンセプトは同じのまま、毎回違う演出家が演出を行うなどすれば飽きることがなく、楽しいのではないかと思います。

委員：かつて嘉穂劇場で座長大会が開催されたときには、商店街や飯塚市を含めた関係団体の協力でお練りをしたと聞いている。このような協力体制をもう一度作れないだろうか。また、嘉穂劇場を襲った水害からの復旧に協力してもらった著名人に、もう一度協力を呼びかけることはできないか。かつてお練りをしていた地域が嘉穂劇場にとっては重要な地域であると思う。

委員：先ほど中心商店街活性化ビジョンについて、全体としてのまとまりの話をしたが、早めに嘉穂劇場をどうするかということ商店街と一緒に議論すべきだと思う。このエリアとしてのゴールがバラバラになってはいけないと思う。嘉穂劇場を活性化していくタイミングは、周辺エリアを変えていく良いタイミングだと思うので、早いうちに周辺エリアと合意形成をしていった方が良いと感じる。

委員：飯塚市には飯塚駅と新飯塚駅、バスセンターの3つが中心であると思う。これらのまち全体をつなぐイベントが重要になると感じる。また、中心市街地の交流人口の空洞化を防ぐためにも、市民が日常的に嘉穂劇場を使用しているの中で、ときどき大きなイベントを開催するというのが良いのではないかと。

会 議 録

⑤ イベントについて

委員 長：文化財については、イルミネーションやライトアップを行う際の制限などはあるのか。

委 員：福岡県では割と盛んにイルミネーションをやっていて、建物にライトなどを引っ掛けたりして、イルミネーションを行うことはよくある。貴賓館も周りが公園なので、公演からライトアップしている実績がある。

委 員：他の自治体にある国の重要文化財でも、県や文化庁の許可を取りながら、ライトアップや特別な演出を行っている。なので国登録有形文化財である嘉穂劇場についても大丈夫ではないか。また、照明の専門家などを入れるとより良く見えるし、全国的に見るとただライトアップするだけじゃなく、課題啓発などテーマに沿ってやっている施設もある。

⑥ 嘉穂劇場とまちの盛り上げ方について

副委員長：嘉穂劇場を再開するまでどうやって盛り上げていくかは重要で、劇場として盛り上げることと観光地として盛り上げことは分けて考えた方がよい。再開までの具体的な盛り上げ方については、期待感をもたらす方法がすごく大事だと思う。そのためには紙面ではなく、動画配信のような形が有効ではないかと思う。また、大型商業施設の進出はまち全体としては歓迎すべきだと思うが、商店街についてはそうではない。商店街が衰退し集客が難しくなる可能性も考えて、共通のゴールを考える必要があるのではないか。

委 員：八千代座では公演でくる役者は街なかに逗留し、食事なども街なかで食べており、芝居が開催されていることが分かりやすくなっている。しかし、役者が市民向けに何かイベントなどを行ったことはあまりないと思う。

委 員：他自治体の事例にはなるが、アーティストインレジデンスという事業で、アーティストがまちに滞在し、まちぐるみで作品制作を応援するプロジェクトがあった。だんだんまちの人がアーティストを普通におもてなしをすることが出来るようになってきた。するとそのアーティストはまた来たいとなって、次は他の人も来て

会 議 録

くれるようになる。伝統ある嘉徳劇場ならば、積み重ねに時間はかかるだろうが、このような取り組みが必ず上手くいくだろうと思っている。

委員：嘉徳劇場が再開したら、子どもたちが使えるようになるのと良いという話をすることがあるので、再開したら一般の市民が沢山使えるようにしてもらいたいと思う。

3-3 劇場再開までに取り組むこと（ソフト事業を中心に）

●事務局より資料4について説明

【質問・意見等】

委員：嘉徳劇場の再開とはどの時点を想定して目標としているのか事務局にお伺いしたい。

事務局：この資料における再開までには、市民や市外の一般の人が嘉徳劇場に足を運ぶことができるようになることを想定している。現在では耐震診断の結果、補強工事も必要かも知れない中で、完全に工事が完了した段階を再開とするようなことは考えていない。

委員：ソフト事業のあり方は段階によって違うと思う。いつでもできることと限定された時期にしかできないことがある。事務局は時系列でソフト事業の戦略を考えてこの資料を整理してもらえれば、委員の共通理解のために役立つのではないか。

委員：市民への働きかけはとても大事だと思う。再開の目途が分かれば、応援したいという人たちの気持ちも高まるし、それまでにどんな人とつながって、応援組織を作っていくのかも具体的に少しずつ考えていた方が良いと思うので、やはりおおよそでも再開の目途が分かれば良いと思う。

委員：今後嘉徳劇場においてできることと言えば、劇場の外でできること、劇場の中でできること、メディアでできることがあると思う。中でできることは期間的にかなり限定される場合があるということで、知ってもらう工夫が必要であると思う。それと同時に外でできることもしっかり考えていく必要がある。土曜マルシェのような毎週そこに行くことを習慣づけるようなイベントを行い、商店街から嘉徳劇場への流れを作るような盛り上げ方もあるの

会 議 録

	ではと思う。そうすれば子どもたちとか市民に愛されるのではと感じる。
4	その他
5	閉会